

# 非鉄金属レポート

ロンドン金属取引所 (LME : London Metal Exchange) ~ 2005年8月の動向

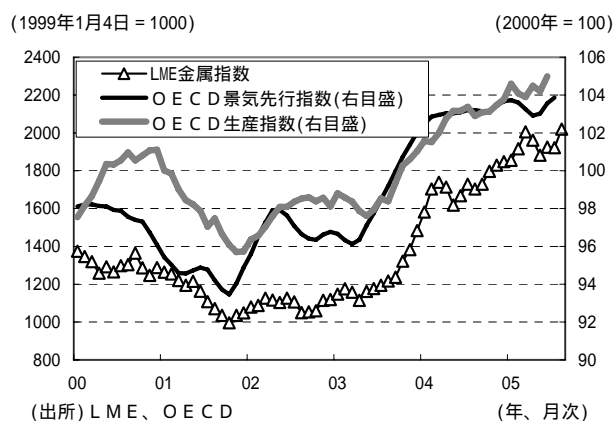
## 【概況】

8月の非鉄金属市況は、亜鉛は急反発、銅は高値更新が続く展開、ニッケルは緩やかに持ち直し、アルミニウムは持ち直しの後に頭打ち、となった。非鉄市況全般の動向を表わすLME金属指数の動きをみると、8月16日に2058.0と過去最高をつけた後やや調整気味に推移したが、9月2日は2064.9と最高水準を更新している。

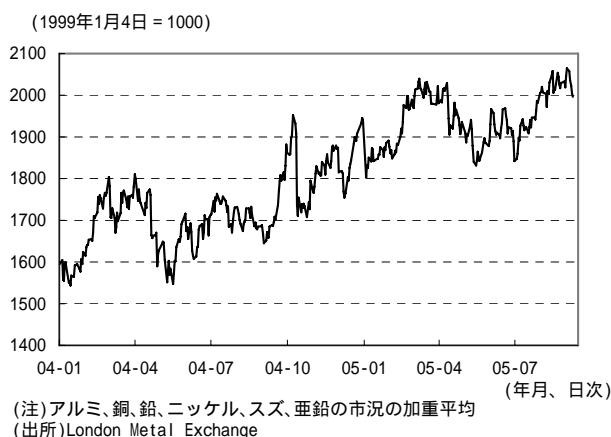
8月前半は、一般的に世界景気の回復期待を背景とした相場上昇であったとみられる。その中で、ストライキなどによる供給制約が懸念された亜鉛や銅の相場上昇幅が大きくなった。8月後半は、アルミニウムにおける中国の供給力過剰に対する懸念やステンレス鋼の生産調整などが相場を抑える要因として材料視された。8月下旬から9月はじめにかけては、ハリケーン「カトリナ」の被害や原油高の各国経済への悪影響が懸念されたが、総じて底堅い推移となった。

足元では、原油価格の調整に伴って商品市況全般に幾分低下圧力がかかっている。しかし、世界景気の底堅い推移が見込まれる中、非鉄金属全般に需要超過の状態がしばらく続くと見られ、ストライキや事故などにより供給懸念が強まると、市況に上昇圧力がかかり易い状況が続いている。

図表1 . LME金属指数と世界景気



図表2 . LME金属指数(日次データ)



【品目別の動向】

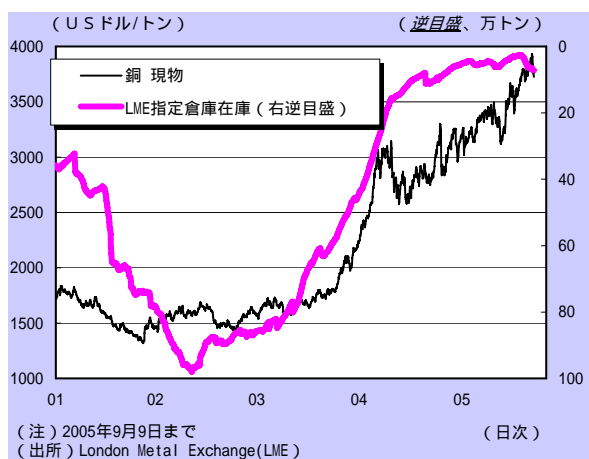
銅～高値更新が続く展開

銅相場は、高値更新が続いている。3ヵ月物は9月2日に3686ドル/トンをつけた。精錬所などでのストライキによる供給制約もあって、需要が供給を上回る状態が続いており、在庫は31年来の低水準にある。7月1日から続く米国のアリゾナ州とテキサス州でのストライキは、精錬会社の倒産申請を経て依然として続いている。また、メキシコの鉱山でも8月後半に一時ストライキが行われた。

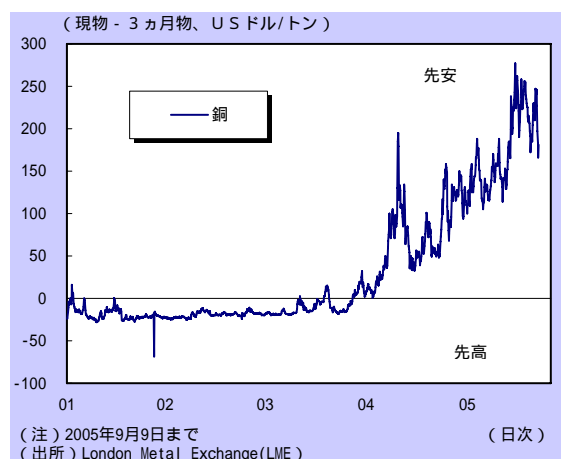
9月に入り、米国でのストライキはようやく労使の合意にメドが立ち始めており、相場の押し下げ要因になっている。しかし、ストライキが解決しても、緩やかに需要が拡大することを見込めば、需給の逼迫感は残るであろう。ただし、来年になると、チリやオーストラリアの鉱山開発が進むことや中国の精錬所の増加が続くため、需給の逼迫感は緩和される可能性がある。

図表3．銅

現物価格とLME指定倉庫在庫の推移



現物スプレッド(現物-3ヵ月物)の推移



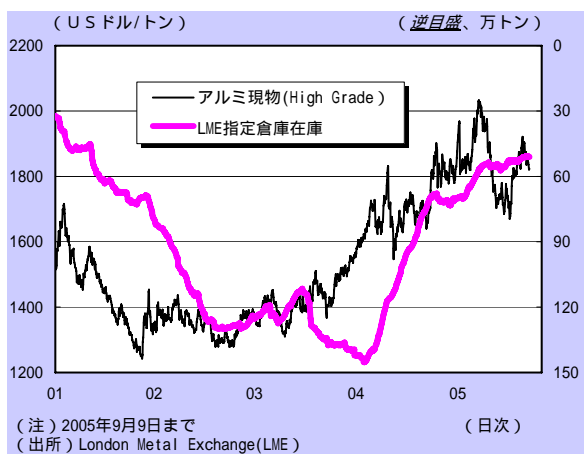
アルミニウム～持ち直し後に頭打ち

アルミニウム相場は、7月になって欧州でのアルミ精錬所閉鎖や中国での原材料となるアルミナ輸入への課税決定の報道などから底打ちの動きが出ており、8月に入っても価格の持ち直しが続いた。しかし、中旬になると、中国の供給力の拡大などを懸念して相場は伸び悩んだ。実際、中国では、生産の伸びほどには輸出が伸びず、在庫が増加している。

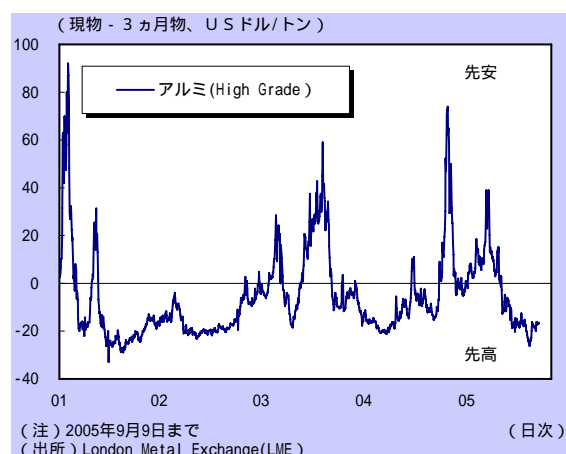
他の非鉄金属に比べ足元の需給は緩和気味であるが、缶、窓のサッシ、自動車や航空機向けなど需要は拡大している。価格の本格上昇には時間がかかる可能性もあるが、欧州を中心に供給力が大幅に減少したことや中国政府による生産抑制の動きもあり、相場が底割れする懸念は小さいであろう。

図表4 . アルミニウム

現物価格と L M E 指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド (現物 - 3 ヶ月物) の推移



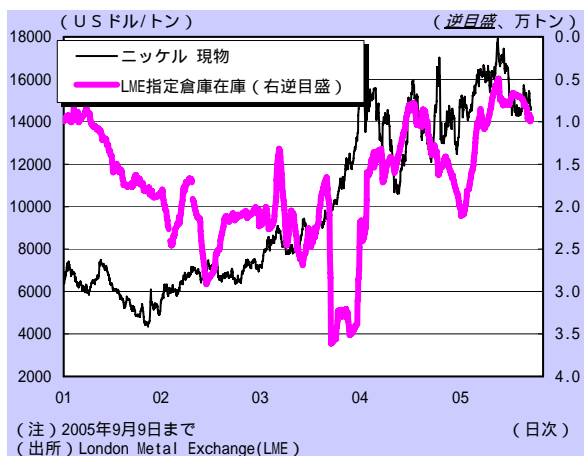
ニッケル～緩やかに持ち直し

ニッケル相場は、6～7月にかけてステンレスメーカーの生産計画の下方修正が相次いだため需要の減退を懸念して弱含みの推移が続いていたが、8月半ばにかけて、世界景気が底堅いことなどを受けて他金属とともに反発した。また、航空機メーカーの受注が好調なことを受けてジェットエンジンなどに使われる超耐熱合金(Superalloy)向けの需要増の思惑が出たことや、引き続き在庫が低水準で推移していることも材料視された。

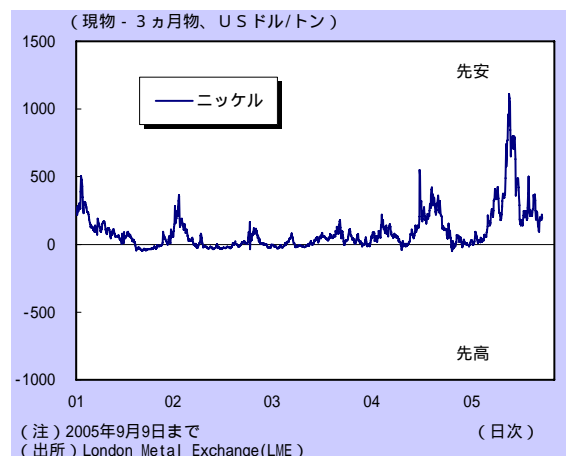
その後は、中国がステンレス鋼の輸入を一部制限するとの報道やブラジル北部で大規模なニッケル鉱脈発見との報道などを受けて、価格は下落に転じている。しかし、ステンレス鋼の在庫調整などから、足元の需要は減速しているにもかかわらず、供給増が限定的なことからニッケル需給はタイトな状態が続いている。オーストラリア、ブラジルなどの鉱山が立ち上がるのは2007～8年の見込みである。当面、ニッケル価格は底堅い動きが見込まれる。

図表5 . ニッケル

現物価格と L M E 指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド (現物 - 3 ヶ月物) の推移



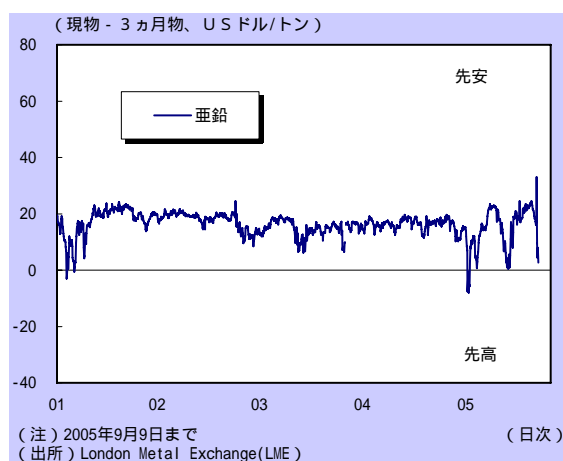
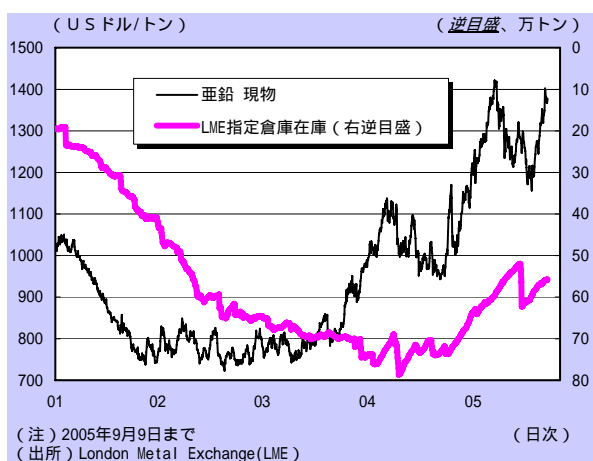
亜鉛～急反発

亜鉛相場は7月中旬を底に上昇に転じ、9月6日には、一時8年来の高値となる1445ドルまで上昇した。主たる用途である自動車や電気機器のメッキ向け需要が底堅く推移しており、2005年は需要が生産量を上回るとみられている。また、7月19日よりカナダの精錬所でのストライキが続いていることも相場の押し上げ要因となっている。また、ハリケーン「カトリーナ」によりニューオーリンズ市内に24カ所あるLME指定倉庫からの亜鉛の運び出しが出来なくなっているため、売り持ちポジションを取ることが難しくなっているとされる。インドの精錬会社が2006年より新設備での生産を開始するなど供給増の動きも出ているが、銅など他金属に比べ相対的に割安な状態であるとの見方も出ており、相場は底堅い動きが見込まれる。

図表6．亜鉛

現物価格とLME指定倉庫在庫の推移

現先スプレッド（現物 - 3ヵ月物）の推移



【問い合わせ先】

UFJ総合研究所 調査部（東京） 芥田  
E-mail : tomomichi.akuta@ufji.co.jp

本レポートは情報提供を唯一の目的としており、何らかの金融商品の取引勧誘を目的としたものではありません。また、掲載された意見・予測等は資料作成時点での判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。